

自定⑤8:00-④8:07 藤沢宿 8:11-10:00 9:0

7:40 藤沢宿 10:00 藤沢宿

第五十一回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪「東海道の歴史を探る追加」

「V」藤沢宿パート3

藤沢宿⑤8:36-藤沢宿8:42着

14名参加

平成22年9月2日(木)(集合;小田急線「藤沢本町駅」改札口9時50分厳守)

同時出発

行程;小田急線「藤沢本町駅」→(真源寺)→上方見附跡→三橋家行在所跡→おし
やれ地蔵→養命寺→本願寺→柏山稲荷神社→(参考;羽鳥御霊神社→耕余塾
跡→城神明社)→四ツ谷不動・大山道道標→一里塚→二つ稲荷→(参考;常
光明真言塔・巡礼供養塔→伊勢屋墓地→本立寺)バス移動「羽鳥駅」→JR
辻堂駅着。

食事場所;辻堂駅付近にて昼食「Denny's」各自・TEL0466-37-2718

藤沢宿

藤沢は遙か昔、鎌倉時代から時宗総本山、遊行寺の門前町として栄えた。江戸時
代慶長6年(1601)この藤沢宿の成立で更に大きな発展を遂げたと言う。更に
江の島が約1里(約4km)とそばにあったため、幕末期には、70軒以上もの旅
籠屋が立ち並んだ。今や行楽地のイメージの強い江の島は、当時は庶民の弁財天参
詣で賑わい、多くの史跡も残っている処です。

規模(正徳元年,江戸時代=1771)宿高1559石840合家数919・人口
総数4089(男2046・女2043)・旅籠屋49・本陣1・脇本陣1

- 1 (真源寺)(浄土宗・風早山・本尊,阿弥陀如来・三橋家檀家・無縁塔=通称万霊供養
塔,参道登り本堂左手)

開山は、願誓秀政天和元年(1681)と伝える。文政3年(1820)台町,
白旗横町を全焼する火災で、本尊,過去帳など焼失。相模国準四国88ヶ所68番
と65番の大師像が現存,本堂に安置。左に藤沢山33世締如上人の石塔,六字名
号「南無阿弥陀仏」とある。時宗の石碑が有り奇異感じる方もいるが,藤沢斎場
にある供養塔と同じ意味。無縁塔は寛政9年(1797)建立。三橋家は江戸末期の
江川代官に信頼され宿場内外の治安に努めた三橋善太郎がよく知られる。

- 2・上方見附跡

引地橋10:08-09

- 3・三橋家行在所跡(郵便局隣)

10:12

4・おしゃれ地蔵祠（天明8年，1788造立銘双体道祖神塔，女性の願い何事も叶える・満願の折おろいで御礼）

10:15~18

5・養命寺（曹洞宗・引地山・本尊桧木彫薬師如来坐像，左手に薬壺玉顔漆塗昭和3年解体修理脚裏に建久8年1197墨書銘国重文，鎌倉初期運慶様，毘首かつま作重文奉安殿安置，脇侍日光，月光菩薩像南北朝作・12神將・格天井224面天井絵慶応2年1866室町期作非公開・相模国準四国88ヶ所16番弘法大師像・舟型庚申塔貞享3年1686・地蔵尊・三界万霊供養塔安永4年1775）

文禄元年（1592文禄）没，本寺宗賢院3世天龍和尚創建とされ，藤沢宿最南端にあり，賑わいの地にあった。

10:28

6・本願寺（浄土宗）；明暦2年（1656）の創建。青面金剛刻んだ庚申塔（享保元年，1716）等石造物・山門出て右手，桜木の下に茂みに双体道祖神塔（安永8年，1779）・馬頭観音菩薩（天保14年，1843）等。引地橋（引地橋西信号・引地川・川べり遊歩道）

長後地域には東に境川・西に引地川流れている。自然条件に恵まれ農耕が開始され，大庭御厨で有名な大庭の荘（オハノショウ）に隣接していた。平安時代末期には，大庭景親に対し，桓武平氏の流れをくむとされる，渋谷重国が治めていた。当寺の本拠（館）は現天満宮附近とされる。その後，渋谷一族の中心は，綾瀬市早川城山公園内早川城趾に移されたと言う。渋谷荘構成は，現，長後・高倉・下土棚・円行・用田・菖蒲沢の藤沢地区が該当する。江戸時代には旗本領。

御詠歌「とくめくる人の命をやしなふて車引地の名をのこしける」

10:30~31

7・柏山稻荷神社（カヤマ・祭神，宇迦之魂命）・厳島千人力弁天社

創立は保元3年（オゲン・1158）大庭城主大庭景親が城の守りのため，引地川を堰き止め，水門の護り神として勧請された。境内弁天社は，「女の人だけで，社殿を建てよ」龍神大神の夢のお告げがあり，女千人をもって社殿建築を努力したとされる伝説。弁天社も大庭景親が厳島神社の分霊を勧請したと言う。

10:33

8・城神明社（タシメイヤ・祭神天照皇大神・例祭8月4日・昭和3年拝殿，同8年神楽殿再建・庚申供養塔他石造物）

永久5年（1117）創建。鎌倉権五郎景政が所領の大庭荘を伊勢神宮に寄進し，大庭御厨が成立したが，その時天照皇大神を勧請したと伝う。此の城（タ）の地域の

何処かに大庭氏の館があったと推定される。

- 9・羽鳥御霊神社（祭神，神産霊神カミムスビノカミ，高産霊神タカムスビノカミ，玉積産霊神タマツムスビノカミ，足産霊神タラムスビノカミ，生産霊神イクスビノカミ5神・羽鳥村鎮守）

境内に，梵鐘（至徳3年，1386銘市指定文化財千葉香取神宮別当神宮寺から村人が非常用警報用に入れた・市指定文化財）・道祖神塔（本堂右手奥・天保4年，1833）・庚申供養塔三猿像（寛文7年，1667三猿配した，市指定文化財）。神産霊神（天地開闢，造化の神・高産霊神）。

- 10・耕余塾跡（元羽鳥小学校にあった勝海舟=勝安房筆「小笠原先生碑」・吉田茂首相・町医者，自由民権運動家，平野友輔等塾生であった・現羽鳥小学校前昭和39年建立農地基盤整備事業讃える土地改良記念碑）

明治5年（1782）3月，羽鳥村廃寺徳昌院庫裏を校舎として，名主三觜（カシ？）八郎右衛門が儒士小笠原東洋を招いて開設「読書院」始まる。明治6年「学制」に基づく羽鳥小学校設置されるが，読書院は私塾として継続し，明治11年には塾者増加のため新校舎を落成「耕余塾」と改め，県内に公立中学整備されるまで隆盛を極めた。

- 11・大山道道標（赤羽=茅ヶ崎一田村の渡し=馬入川一大山への道）・四ツ谷不動堂

東海道が藤沢バイパスと合流する地点に，大山道の道標「是より右大山道」（延宝4年，1676）を納めた小堂があり，右に大山道の一の鳥居が立っている。小堂の中には，不動明王が安置されている。

- 12・二ツ谷稲荷 *庚申供養塔 11206*

二ツ谷稲荷は二つ家とも書き道辻に二軒家，二軒茶屋があったとも言われたことから此の名が。

- 13・一里塚（国道羽島交番前信号付近・日本橋から13番目）

辻堂の地は多くの辻に囲まれており，その辻を，かつて大山詣でや江の島詣での旅人が行き交い，又，藤沢宿への買い物等，幾多の人々は生活利用していた。昔辻堂村は，宝泉寺・辻堂諏訪神社近くの「四つ角」を中心に東町，西町，南町，北町の集落が形成されており，当時も此処を中心に考えると，四ツ谷大山道へ，藤沢道へ，鎌倉道へと，道が放射線状に伸びているのが明瞭となる。古き道を辿（外）りな

がら社寺、石仏などを訪ね往事の面影を散策する。

11/10

- 14・常光明真言塔・巡礼供養塔（南の寺光明真言道場宝泉寺への道標）・巡礼供養塔（国道向かいに西国坂東秩父巡礼塔・享和3年1803用田村の人々により道中安全祈願建立）

11/15

- 15・伊勢屋の墓地

二つ谷附近街道立場茶屋の1つ、明治維新後は、酒屋を営んでいた事知られる。

- 16・本立寺（おリュウジ・日蓮宗・宝光山・本尊十界曼陀羅、大正13年静岡県清水市興津から移入）

創立は文禄元年（1592）。

辻堂神宮二丁目山崎 11/22

辻堂駅出口 11/29

ディーンスト 11/38 (昼解散)

ご参考；「小栗伝説」遊行寺・ウィットリッヒの森他藤沢市内に多くある。

その原型は、室町時代15世紀半ば、鎌倉公方家と管領家との間の争い・上杉禅秀の乱に関連して滅亡した常陸国の小栗家との御霊を鎮める巫女の語りとして発生したものとされる。「何故、常陸国の話が藤沢」で？これは、室町時代末に原本が成立していたとされる「鎌倉大草紙」に、その記が見え、更に同時代末から江戸時代にかけて流行した説教浄瑠璃に「おぐり判官」があり、時宗教壇の動きと絡み全国的に波及したものと考えられる。上杉禅秀の乱関連して遊行寺には、国指定史跡「敵味方供養塔」があり、この時代、何かの史実があつての伝承と思われる。江戸時代に入り、浄瑠璃では、近松門左衛門の「当流小栗判官」、竹田出雲等の「小栗判官車街道」等を生み、歌舞伎でも人気を博し、豊国の浮世絵、更に、浅井了意著「東海道名所記」などで紹介されている伝承は、根は同じとしても、その筋書きは「鎌倉大草紙」系と説教浄瑠璃系とに大別される。何れの史実其のものではなく、遊行寺（鎌倉大草紙系か）を中心とする時宗教団と深く関わり伝承されたと考える。昔小栗判官は常陸の国住む。藤沢へやって来た。御所ヶ谷に照手姫の父、横山将監の御殿「乾（東俣野御殿から見て北西方角）の御殿」があった。東俣野の殿窪にも御殿があった。そこへ来た小栗と照手姫は愛し合うようになった。横山の父が怒って、無理難題を吹きかけた「この暴れ馬を乗りこなせたら姫をやる」小栗は乗りこなす。仕方なく照手を婿にしたが気に入らない、それで毒酒をのました。小栗には10人の家来がいた。その家来も殺して、火葬にしたが、小栗だけは土葬にした。そこが小栗塚と伝わる。所が生き返って、そこから出て土をふるった処が、土震塚（スフルイ）と言う。藤沢民話から要約。

